

火山防災協議会 議事概要

(吾妻山火山防災協議会・安達太良山火山防災協議会・磐梯山火山防災協議会 合同会議)

1 日時等

日 時：平成30年5月29日（火）13時30分～

場 所：福島県庁北庁舎2階 危機管理センタープレスルーム

出席者：別紙 出席者名簿のとおり

2 議事概要

議事進行：議長（福島県危機管理部長）

－ 協議事項 －

(1) 火山活動が活発化した場合の避難計画（火口周辺地域）について

〔説明〕事務局（福島県災害対策課）

・資料1-1、1-2により、計画策定の趣旨、当該計画における対象事項、これまでの策定経過、今後の取組等について説明。

○火山防災協議会が「火山単位の統一的な避難計画」として定める事項について、県及び市町村の地域防災計画や防災関係機関の防災業務計画等に反映することにより、実効性のある警戒避難体制を推進します。

○噴火警戒レベル2（火口周辺規制）及び噴火警戒レベル3（入山規制）の事態において、火口周辺の登山者や観光客、観光施設職員、山小屋の管理者等の迅速な避難を実施するため、防災体制、情報収集・伝達、避難誘導、立入規制、救助活動体制等を定めたものです。

○各火山において課題となっている事項について、関係機関で対応方針を協議・検討し、計画の見直しを要する内容については、火山防災協議会において協議してまいります。

○融雪型火山泥流を想定した住民等の避難計画（噴火警戒レベル4及び5発表時の避難対応等）については、今年度に策定作業に着手します。

【質疑・意見】茨城大学 藤縄教授

◇安達太良山の資料1-2の21頁に「火口周辺地域における避難経路」の図が記載されていますが、沼尻登山口方面への避難経路について、「胎内岩への分岐」から「白糸の滝」を経由するルートは、過去の噴火で火砕サーージが谷筋に沿って流れ下ったところと一致してしまう危惧がございます。胎内岩の方から下る場合は、沼尻登山口の方へは行かずに、「笹平分岐」「箕輪山」方面に逃げた方が安全性が高いのではないかと思います。そのあたりの対応についてどのように検討されたのでしょうか。

〔説明・回答〕事務局（福島県災害対策課）

○火口周辺地域における避難経路については、関係市町村を集めての計画案の検討課程におきまして、現在使用している登山道を活用する形で検討を進めて参りました。御指摘のように噴火災害の影響を受けるリスクが大きいという場合は、御助言等をいただきながら、計画上の避難経路の見直しを図っていきたいと考えております。

《審議》議長（福島県危機管理部長）

◎他に御意見等がないようですので、本日の議題（１）について、最終案の内容で決定することとしてよろしいでしょうか。

※各委員からの異議なし。

◎それでは、議題（１）の計画案について、皆様から御了解をいただいたということで整理させていただきます。

－ 報告事項 －

（２）本県の火山及び全国の火山の状況について

〔説明〕福島地方気象台

- ・資料２－１により、全国の主な活火山（霧島山（硫黄山）、霧島山（新燃岳）及び草津白根山）の活動状況について説明。
- ・資料２－２、資料２－３、資料２－４により、吾妻山、安達太良山、磐梯山の火山活動状況について報告。

○磐梯山については、５月８日に一時的に火山性活動が増加しましたが、以前からも一時的に火山性地震が増えるという状況があり、今回も火山活動に特段の変化があったということでもなく、噴火警戒レベルの引上げもないということで解説情報を出しました。

○磐梯山の「火山の状況に関する解説情報」において、防災上の警戒事項として噴気や火山ガスの噴出等について記載しましたが、今回の火山性地震の増加に伴うものと思われてしまうというところもあり、今後の表現内容について調整中です。

《進行》議長（福島県危機管理部長）

◎磐梯山の火山性地震の増加について、報告がありましたが、火山活動の状況に変化があった場合には、皆様と連携して迅速かつ適切に対応できるよう、情報の収集・共有に努めて参りたいと思いますので、気象台を始め、皆様の御協力をお願いします。

(3) 浄土平周辺地域における火山防災対策の取組について

〔説明〕 福島市

- ・資料3により、浄土平周辺地域における火山防災対策の取組について説明。
 - ・浄土平避難誘導訓練について、これまで(平成27年度以降)の訓練状況を報告。
- 浄土平ビジターセンター、浄土平レストハウス、浄土平天文台の3施設について、平成30年3月1日付けで避難促進施設に指定しております。現在、3施設と福島市が共同で避難確保計画を作成中です。遅くとも平成30年度中の完成を目標としております。
- 訓練に参加した浄土平観光施設の職員からは、多くの観光客の避難誘導を少人数の職員で対応できるか課題である旨、毎年、意見が出ております。火口周辺地域の避難計画では、必要に応じて福島市の職員が現地で観光施設職員とともに観光客等の避難誘導を行う旨を盛り込んでいるところであり、関係者の皆様の力を合わせて協力しながら対応していきたいと考えております。

【質疑・意見】 磐梯山噴火記念館 佐藤館長

- ◇これまでの浄土平での避難訓練に参加してみて、型どおりの訓練であると感じており、型どおりの訓練では、本当に噴火した時に役に立ちません。噴火が発生した時にどのように行動する必要があるのか、浄土平観光施設の皆さんに理解していただくため、今年の避難訓練の後、5月12日に浄土平観光施設の皆さんと勉強会を開催いたしました。そこで彼らから、切実な思いを聞いて参りました。
- シーズンによっては1,000人以上の観光客が訪れる中、少ない職員数で、どれだけ迅速に、そして冷静に避難対応ができるのか、非常に不安だと言っていました。訓練では、一番最悪な条件を想定しなければならないと考えます。
- ◇少なくとも、避難誘導のための看板を準備しなければなりません。土地勘の無い観光客に「土湯方面へ避難」と呼びかけても伝わりません。大きな矢印看板を事前に作っておくことが、最低限必要です。
- ◇今年の避難訓練では、スピーカーからのアナウンスが聞こえたということですが、それは噴火していない状況だからであり、実際の噴火状況下では、現在の小さなスピーカーでは放送が聞こえません。既に蔵王では大きなスピーカーを設置しています。多くの人命を守るため、費用がかかったとしてもやらなくてはならないことです。
- ◇また、かねてから言っていることは、シェルターの準備です。吾妻小富士の上にいる人は、計画上、東側に避難することになっていますが、東側に身を隠せるものはありません。ですから、吾妻小富士の上にシェルターを設置する必要があると思います。全国では、シェルターの設置が進められています。福島市の観光の目玉である浄土平へ多くの観光客に安全に訪れていただくためにも、シェルターの設置、そして既存施設の補強、希望としては、レストハウスの地下避難所の整備など、検討していく必要があると思います。

《進行》議長（福島県危機管理部長）

◎佐藤館長からも意見がありました。浄土平地域の施設については、多くの観光客が訪れる場所であると同時に、火口から距離が近いため、観光客等の避難誘導は非常に難しいものであります。関係機関が知恵を出し合い、できるところから対策を進めていくことが重要でありますので、皆様の御理解・御協力をお願いします。

(4) 磐梯山防災マップの作成状況について

〔説明〕会津若松市

- ・資料4-1により、火山防災マップの作成状況について説明。
- 7月中に完成し、8月初旬には融雪型火山泥流の影響を受ける地域（旧河東町）に配布する予定です。

〔説明〕湯川村

- ・資料4-2により、火山防災マップの作成状況について説明。
- 地震・洪水その他全ての自然災害を含んだ村の防災マップ作成の中で、火山防災マップのページを準備しているところです。
- 6月初旬に村議会及び住民説明会を開催後、村内全戸に配布する予定です。

《進行》議長（福島県危機管理部長）

◎会津若松市及び湯川村で作成中の火山防災マップにつきましては、完成になり次第、協議会の皆様にお送りさせていただきます。

(5) 株式会社ラジオ福島との「防災に係る相互協力に関する協定」の締結について

〔説明〕事務局（福島県災害対策課）

- ・資料5により、株式会社ラジオ福島との協定締結について説明。
- 防災キャンペーンや防災イベントにおける普及啓発等の「平時における防災連携」と災害情報や避難の呼びかけ、ライフラインに関する情報発信等の「災害発生時における相互連携」が主な協定の内容となります。
- 火山防災対策としては、火口周辺の携帯電話が通じない区域にいる登山者等に対し、ラジオ放送を通じて、火山活動や避難の呼びかけに関する情報を伝達するための体制強化となることが期待されます。

【質疑・意見】磐梯山噴火記念館 佐藤館長

◇ラジオ事業者との連携協力によって普及・啓発を行っていくことについては大変良いことだと思いますが、火山現象については、耳からではなかなか伝わりにくい面があることから、是非TV局とも協定を結んでいただいて、TV番組の中で火山防災の普及・啓発を行っていくことも検討していただきたい。

(6) 平成30年度事業について

〔説明〕事務局（福島県災害対策課）

- ・資料6-1により、福島県が予定する平成30年度事業について説明。
- 「火口周辺地域における避難計画」について、必要に応じて見直しを図るとともに、「融雪型火山泥流を想定した住民等の避難計画」について、7月頃を目途に検討作業に着手します。なそ、平成29年度に引き続き、内閣府による避難計画検討支援事業に応募を予定しております。
- 火山防災対策検討ワーキンググループを設置し、ラジオ等を活用した広報・啓発や危険周知のための情報伝達手段、各種防災訓練の実施計画等、ハード・ソフト対策の両面から具体的な火山防災対策を検討してまいります。
- 福島県観光交流課の事業として、浄土平レストハウスの屋根・窓ガラスの強化及び安達太良山避難小屋（くろがね小屋）の建替に向けた地質調査等を予定しています。

【質疑・意見】磐梯山噴火記念館 佐藤館長

- ◇浄土平における火山ガスの対策として、一定程度の濃度が観測された場合に警報ブザーが鳴るような自動検知システムの導入について、そろそろ真剣に考える時期ではないでしょうか。既に草津白根山、阿蘇山、三宅島といったところでは導入されています。浄土平でも火山ガス濃度の高まりに危険を感じたという話も聞いておりますので、是非、御検討をお願いします。

〔説明・回答〕事務局（福島県災害対策課）

- 今回、佐藤委員から御意見をいただいた各事項につきましては、今後、火山防災対策検討ワーキンググループにおきまして、検討させていただきます。

〔説明〕福島地方气象台

- ・資料6-2により、遠望観測施設の更新（3山）及び安達太良山への地磁気観測施設の設置について説明。

【質疑・意見】福島大学 長橋教授

- ◇遠望観測カメラに雪が着いて見えなくなることがありますが、施設の更新で変化はあるのでしょうか。

〔説明・回答〕仙台管区气象台

- 設備の更新で映像は綺麗になりますが、冬期の降雪により雪が着くというのは、如何ともし難いところであり、カメラの性能が向上しても雪への対応は従来と変わらないということになります。

(7) その他（全体を通した質疑・意見等）

【質疑・意見】磐梯山噴火記念館 佐藤館長

◇火山専門家と行政の関係者が一緒に山に登る機会を設けるということについて提案させていただきます。こういった会議も大事なのですが、火山噴火が起きる現場を知っておくことが非常に重要です。是非、協議会として現場で学ぶ機会を考えていただきたいと思います。

《進行》議長（福島県危機管理部長）

◎以上で、本日より予定していた議事は終了しましたので、議長の任を降ります。御協力ありがとうございました。今後とも委員の皆様には格別の御協力をお願いいたします。